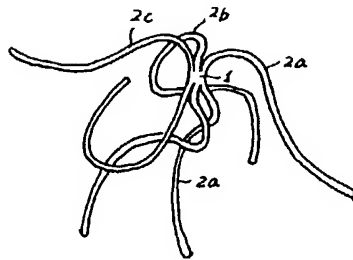


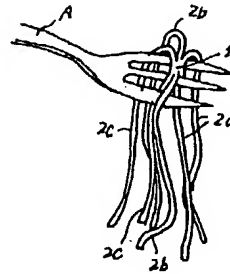
第 1 図



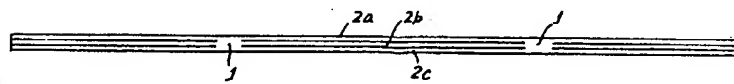
第 2 図



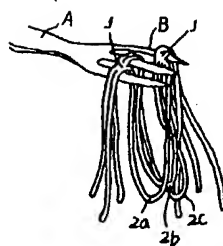
第 3 図



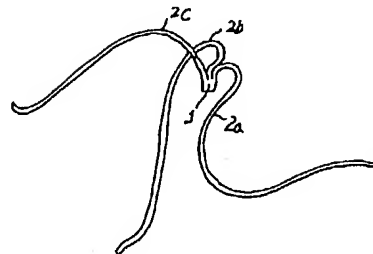
第 4 図



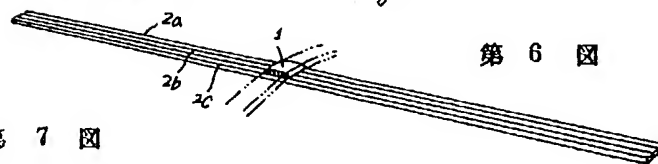
第 5 図



第 8 図



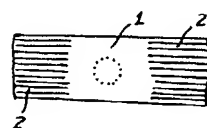
第 6 図



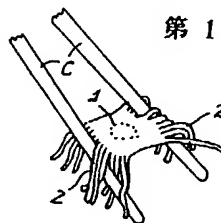
第 7 図



第 9 図



第 10 図



⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭59—125860

⑤ Int. Cl.³
A 23 L 1/16

識別記号

庁内整理番号
B 6904—4B

⑬ 公開 昭和59年(1984)7月20日

発明の数 1
審査請求 有

(全 3 頁)

⑭ 麵の構造

① 特 願 昭57—232244
② 出 願 昭57(1982)12月29日

⑯ 発 明 者 植木俊雄
熊谷市曙町4丁目9番地
⑰ 出 願 人 植木俊雄
熊谷市曙町4丁目9番地

明 細 書

1. 発明の名称 麵の構造
2. 特許請求の範囲

複数本の麵糸に共通する節目部を設け、上記節目部をフォーク、箸などで保持する係合部分としたことを特徴とする麵の構造。

3. 発明の詳細な説明

本発明は、中華麵、日本麵、そば麵、スパゲッティ、ヌードルなどの麵の構造に関するものである。

これら、麵類は、古来、糸状に形成されており、フォーク、箸などで吊り上げると、滑り落ち易い。そこで、インスタント麵では、麵糸にウエーブを付けるなどして、フォーク、箸などへのとまりをよくする工夫がなされているが、身体障害者、幼児などは、元来、フォーク、箸の使い方に慣れていないから、麵類を食べる時、苦勞することになり、敬遠される原因ともなる。

本発明は、上記事情にもとづいてなされたもので、複数本の麵糸について共通する節目部を設け

て、上記節目部で、フォーク、箸に係合し、確実に麵糸の吊持ができ、身体障害者、幼児などでも容易に喰べることができるようにした麵の構造を提供しようとするものである。

以下、本発明の実施例を図面を参照して具体的に説明する。第1図にみられるのは、板状に形成した麵の成形過程で、三本の麵糸について、切断3の行なわれていない共通する節目部1を形成したもので、上記節目部1で三本の麵糸2a、2b、2cは連結された状態になつている。このような構成では、第2図のように料理された後、例えばフォークなどで喰べようとする時、上記節目部1が第3図のようにフォークAの爪Bに係合し、滑り落ちを防止できる。

第4図にみられる実施例は、上記節目部1を複数個所(この実施例では2個所)に設けているもので、第5図のように、フォークなどで喰べようとする時、第1の実施例と同じようにフォークAの爪Bに係合し、滑り落ちを防止できる。この場合、節目部1と1との間は、例えば、図のように

両持ちの形でたれ下り、たれの上りがよくなるという利点もでてくる。

また、第6図にみられるように、通常のごとき糸状の麺に、節目部1を取付けた構造にしてもよい。この構造では、節目部1に別の味付けをした細材料を使用することもでき、味覚に所望の風味をそえることもできることになる。このように節目部1を別に取付ける場合には、成形過程で、麺糸の方向と直交する方向に予め節目部1相当の帯状体を付け、この部分を各麺糸ごとに切断せず、複数本の麺糸について、これらを連結するように、上記節目部1の切断を行えばよい。

第7図にみられる実施例では、上記節目部1が切断された麺糸の一端側に形成されている構造が示されている。これは、料理された状態では第8図のような形となり、実質的に、第1の実施例と同じことになる。

第9図は、この麺の構造をワンタンにまで拡大使用した実施例である。ここでは、ワンタンの中央（肉類を詰めた部分）が、節目部1になつてお

り、その周縁には、切断加工で、麺糸2が形成されている。このような構成では、通常、箸Cでは少々、取りにくいワンタンも、麺糸2の部分が箸の引掛りとなり、第10図にみられるように、取り易くなる。また、麺糸2の部分において、汁のとまりがよく、喰べる時の味わいに変化がでる。

なお、上記実施例では、中華麺、日本麺、そば麺などに適用する例をあげているが、西洋麺、すなわち、スパゲッティ、ヌードルなどにも適用できる構造であること勿論である。

本発明は、以上詳述したように、複数本の麺糸に共通する節目部を設け、上記節目部をフォーク、箸などで保持する係合部分としたことを特徴とするものであり、これによつて、フォーク、箸に対する麺のとまりをよくし、身体障害者、幼児など、フォーク、箸をうまく使えない者も、容易に麺類を喰べられるようにするという効果が得られる。

4. 図面の簡単な説明

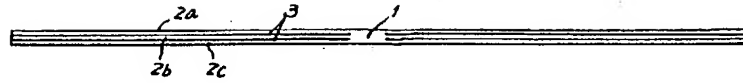
第1図は本発明の一実施例を示す平面図、第2図は料理された状態の一例を示す斜視図、第3図

はフォークを使用して麺糸を吊持した状態を示す斜視図、第4図は別の実施例の平面図、第5図はフォークを使用して麺糸を吊持した状態を示す斜視図、第6図は別の実施例の斜視図、第7図は更に別の実施例の平面図、第8図は料理後の状況を示す斜視図、第9図はワンタンに適用した実施例を示す平面図、第10図は、箸によつてワンタンを吊持した状態を示す斜視図である。

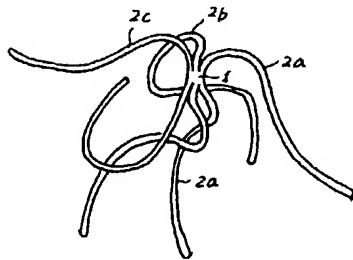
1…節目部、2、2a、2b、2c…麺糸、3…切断、A…フォーク、B…爪、C…箸

特許出願人 植 木 俊 雄

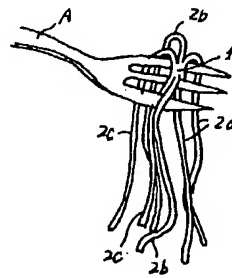
第 1 図



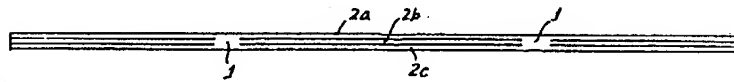
第 2 図



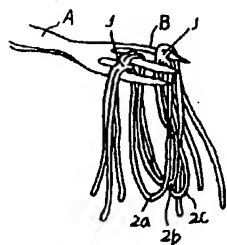
第 3 図



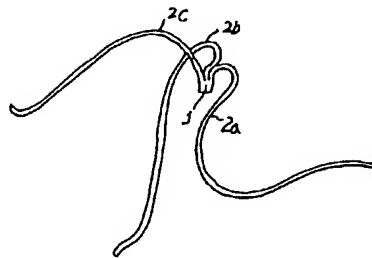
第 4 図



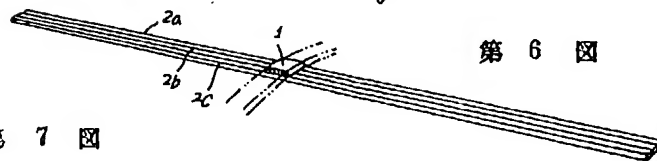
第 5 図



第 8 図



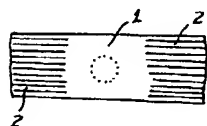
第 6 図



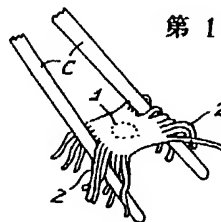
第 7 図



第 9 図



第 10 図



⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭59—125860

⑤ Int. Cl.³
A 23 L 1/16

識別記号

庁内整理番号
B 6904—4B

④ 公開 昭和59年(1984)7月20日

発明の数 1
審査請求 有

(全 3 頁)

⑭ 麵の構造

⑮ 特 願 昭57—232244
⑯ 出 願 昭57(1982)12月29日

⑰ 発 明 者 植木俊雄
熊谷市曙町4丁目9番地
⑱ 出 願 人 植木俊雄
熊谷市曙町4丁目9番地

明 細 書

1. 発明の名称 麵の構造
2. 特許請求の範囲

複数本の麵糸に共通する節目部を設け、上記節目部をフォーク、箸などで保持する係合部分としたことを特徴とする麵の構造。

3. 発明の詳細な説明

本発明は、中華麵、日本麵、そば麵、スパゲッティ、ヌードルなどの麵の構造に関するものである。

これら、麵類は、古来、糸状に形成されており、フォーク、箸などで吊り上げると、滑り落ち易い。そこで、インスタント麵では、麵糸にウェーブを付けるなどして、フォーク、箸などへのとまりをよくする工夫がなされているが、身体障害者、幼児などは、元来、フォーク、箸の使い方に慣れていないから、麵類を食べる時、苦勞することになり、敬遠される原因ともなる。

本発明は、上記事情にもとづいてなされたもので、複数本の麵糸について共通する節目部を設け

て、上記節目部で、フォーク、箸に係合し、確実に麵糸の吊持ができ、身体障害者、幼児などでも容易に喰べることができるようにした麵の構造を提供しようとするものである。

以下、本発明の実施例を図面を参照して具体的に説明する。第1図にみられるのは、板状に形成した麵の成形過程で、三本の麵糸について、切断3の行なわれていない共通する節目部1を形成したもので、上記節目部1で三本の麵糸2a、2b、2cは連結された状態になつている。このような構成では、第2図のように料理された後、例えばフォークなどで喰べようとする時、上記節目部1が第3図のようにフォークAの爪Bに係合し、滑り落ちを防止できる。

第4図にみられる実施例は、上記節目部1を複数個所(この実施例では2個所)に設けているもので、第5図のように、フォークなどで喰べようとする時、第1の実施例と同じようにフォークAの爪Bに係合し、滑り落ちを防止できる。この場合、節目部1と1との間は、例えば、図のように

両持ちの形でたれ下り、たれの上りがよくなるという利点もでてくる。

また、第6図にみられるように、通常のごとき糸状の麺に、節目部1を取付けた構造にしてもよい。この構造では、節目部1に別の味付けをした麺材料を使用することもでき、味覚に所望の風味をそえることもできることになる。このように節目部1を別に取付ける場合には、成形過程で、麺糸の方向と直交する方向に予め節目部1相当の帯状体を付け、この部分を各麺糸ごとに切断せず、複数本の麺糸について、これらを連結するように、上記節目部1の切断を行えばよい。

第7図にみられる実施例では、上記節目部1が切断された麺糸の一端側に形成されている構造が示されている。これは、料理された状態では第8図のような形となり、実質的に、第1の実施例と同じことになる。

第9図は、この麺の構造をワンタンにまで拡大使用した実施例である。こゝでは、ワンタンの中央(肉類を詰めた部分)が、節目部1になつてお

り、その周縁には、切断加工で、麺糸2が形成されている。このような構成では、通常、箸Cでは仲々、取りにくいワンタンも、麺糸2の部分が箸の引掛りとなり、第10図にみられるように、取り易くなる。また、麺糸2の部分において、汁のとまりがよく、喰べる時の味わいに変化がでる。

なお、上記実施例では、中華麺、日本麺、そば麺などに適用する例をあげているが、西洋麺、すなわち、スパゲッティ、ヌードルなどにも適用できる構造であること勿論である。

本発明は、以上詳述したように、複数本の麺糸に共通する節目部を設け、上記節目部をフォーク、箸などで保持する係合部分としたことを特徴とするものであり、これによつて、フォーク、箸に対する麺のとまりをよくし、身体障害者、幼児など、フォーク、箸をうまく使えない者も、容易に麺類を喰べられるようにするという効果が得られる。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の一実施例を示す平面図、第2図は料理された状態の一例を示す斜視図、第3図

はフォークを使用して麺糸を吊持した状態を示す斜視図、第4図は別の実施例の平面図、第5図はフォークを使用して麺糸を吊持した状態を示す斜視図、第6図は別の実施例の斜視図、第7図は更に別の実施例の平面図、第8図は料理後の状況を示す斜視図、第9図はワンタンに適用した実施例を示す平面図、第10図は、箸によつてワンタンを吊持した状態を示す斜視図である。

1…節目部、2、2a、2b、2c…麺糸、3…切断、A…フォーク、B…爪、C…箸

特許出願人 植 木 俊 雄

PAT-NO: JP359125860A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 59125860 A
TITLE: STRUCTURE OF NOODLE
PUBN-DATE: July 20, 1984

INVENTOR-INFORMATION:
NAME
UEKI, TOSHIO

ASSIGNEE-INFORMATION:
NAME
UEKI TOSHIO

COUNTRY
N/A

APPL-NO: JP57232244
APPL-DATE: December 29, 1982

INT-CL (IPC): A23L001/16
US-CL-CURRENT: 426/557

ABSTRACT:

PURPOSE: To provide noodles which can be held easily with fork, chopsticks, etc., by forming a joint common to plural noodle strings for hooking the noodles with spoon, etc. at the joint.

CONSTITUTION: Plural noodle strings 2a∼2c are furnished with a common joint 1, which is used as a hooking part to hold the noodles with a fork, chopsticks, etc. The noodles are hooked and held surely at the joint with the fork, chopsticks, etc. Accordingly, the noodles can be handled easily by a physically handicapped person or an infant.

COPYRIGHT: (C)1984,JPO&Japio